

なめがたをあるく



江戸時代の侍まいを残す武家屋敷 〜麻生藩家老屋敷〜

●麻生藩家老屋敷記念館



旧畑家住宅



住宅内部



植田敏雄さん

麻生公民館の駐車場に車を止め、道路を挟んだ反対側の狭い路地を徒歩で約7分、麻生藩家老屋敷記念館に到着します。

江戸時代、現麻生小学校の場所に麻生藩主新庄氏の居館兼藩政庁（麻生陣屋）があり、その周囲に藩士の屋敷が並んでいました。その一つが、麻生藩新庄氏の筆頭家老を務めた旧畑家の住宅で、現存する主屋は、安政3年（1856）に火災で焼失し、翌安政4年に再建されたものです。その後、明治23年（1890）に医院を経営していた福田家の所有となり、平成3年、福田家から旧麻生町に寄贈され、翌平成4年に、表門を含め修復整備が行われ、麻生藩家老屋敷記念館として一般公開されております。

旧畑家住宅は県内でも数少ない武家屋敷の遺構で、畳の部屋数が多くて土間部分が小さく、上級武士の役宅の特徴を示しており、全体的に当時の屋敷をほぼ完全な形で残し

ているようです。昨年11月には、茨城県指定有形文化財の指定を受けました。今回、市文化財保護審議会委員で旧畑家住宅の保護保存にご尽力された植田敏雄さんに今後の活用方法等について伺いました。

「旧畑家住宅が県指定されたことは、これまで調査・研究を続けてきた麻生郷土文化研究会の会員にとりまして大きな喜びとなりました。当時の面影を残しているのは、麻生地区ではここだけです。記念館としてこの地に残ったことは、残したいという地元への執念があったからであり、麻生陣屋跡周辺の歴史景観の面でも、麻生地区の観光面においても大変意義深いものと思っております。多くの方にご来館いただき、郷土を愛する心が育まれることを期待します。」

記念館は、年末年始を除く木曜日・日曜日と祝祭日の午前9時〜午後4時まで開館しておりますので、江戸時代の武家屋敷を味わいください。

ROOKIE

市内で頑張るフレッシュな人を紹介していきます！

海老澤さん

（漁業・川魚料理店 山源）

定置網、トロール漁などを行いワカサギ、シラウオ、コイ、ナマス、ウナギなどを獲っています。

また、現在、コイの養殖なども試験的にを行っています。北浦、霞ヶ浦と日本を代表する湖があるの

で、ぜひ川魚をたくさん食べてほしいですね。



編集後記

水産教室に参加した小学生に、試食した魚料理の感想を聞いたところ、鯉バーガーとわかさぎのカレー風唐揚げがとてもおもしろかったとのこと。地元産の魚と野菜を使った料理の味は格別でした。（保）

消費生活相談センターには様々な相談が寄せられるとのこと。悪質商法は身近な問題です。知識を持ち、相手の手口を知ることがトラブル回避につながります。賢い消費者になりましょう。（友）